
国内フードテック（代替タンパク）事業者の概要

国内フードテック（代替タンパク）事業者の概要

国内には植物由来タンパク、昆虫由来タンパク、培養肉を扱うフードテック事業者が存在し、そのうち大豆による代替タンパクを扱う事業者が海外輸出を実施。

種別	原材料	輸出有無・概要
植物由来 タンパク	大豆	- メーカーAは北米・マカオ、メーカーBは台湾へ、それぞれ大豆ミートを輸出 - メーカーCは4か国に現地工場、メーカーDは米国に子会社を有し、海外で大豆ミートを展開（輸出実績は不明） - メーカーEはハラル対応商品として大豆ミートをイスラム圏へ輸出 - メーカーFは大豆ミートを北米に輸出。こんにやくミートも製造
	こんにやく	
昆虫由来 タンパク	ハチ・カイコ・タガメ 等	- メーカーGは、ハチやカイコ、タガメなどの昆虫を使用したスナック菓子や飲料をオンラインショップ・実店舗にて販売 - メーカーHのコオロギパウダーを原料に、2020年に大手小事業者が「コオロギせんべい」を販売 2021年時点では商品輸出を行う企業は存在しない
	コオロギ	
	蚕	
培養肉	動物細胞	- メーカーIは、研究機関や食品メーカーとともに細胞培養肉（牛肉、魚肉、フォアグラ、エビ肉等）を研究・開発 - メーカーJは、東京大学と共同で培養ステーキ肉を研究。2024年度中に基礎技術の確立を目指す 2021年時点では、いずれの事業者も研究・開発段階に留まっている

国内フードテック（代替タンパク）事業者の輸出取組事例（1/4）

メーカーAは大豆ミートや植物性チーズ商品を展開しており、大豆ミート商品を北米・マカオへ輸出。欧米豪への輸出計画も進行中。

メーカーA

商品種類

- 大豆ミート
- 植物性チーズ

商品名

—

商品概要

- シリーズで大豆ミートによる冷凍ミンチやナゲット、ソーセージ、魚肉等を展開
- 植物チーズとして、動物由来原料不使用で大豆を用いた、商品を展開

輸出実績

- 北米・マカオへの輸出実績
- 現在、欧米豪諸国への輸出計画が進行中

国内フードテック（代替タンパク）事業者の輸出取組事例（2/4）

メーカーBでは大豆ミートを用いたハムやミニカツ、業務用の乾燥大豆ミート等を展開しており、台湾向けに30年以上の輸出実績を有している。

メーカーB

商品種類

- 大豆ミート

商品名

—

商品概要

- 大豆ミートを用いたハムやミニカツといった市販商品を展開
- 業務用では、乾燥大豆ミートの製造も実施

輸出実績

- 30年以上の台湾向けの輸出実績を有する
 - 国内・台湾向けの売上比率は半分ずつ

国内フードテック（代替タンパク）事業者の輸出取組事例（3/4）

メーカーCは大豆ミート・大豆粉といった素材や、大豆ミートを用いた調理品を展開し、イスラム圏にハラール対応商品として一部輸出を実施。

メーカーC

商品種類

- ・ 大豆ミート

商品名

—

商品概要

- ・ レトルト・乾燥・冷凍タイプ別大豆ミートや大豆粉といった素材のほか、調理品も展開
- ・ 2020年4月に14商品で、NPO法人ベジプロジェクトジャパンのヴィーガン認証を取得

輸出実績

- ・ イスラム圏に対し、ハラール対応商品として一部輸出を実施

国内フードテック（代替タンパク）事業者の輸出取組事例（4/4）

メーカーDは大豆ミート、こんにゃくミートを展開し、大豆ミートにおいて北米に年間5トン規模の販売実績を有するほか、海外向けのOEM商品の請負も実施。

メーカーD

商品種類

- 大豆ミート
- こんにゃくミート

商品名

—

商品概要

- 大豆ミートを用いた商品では、照り焼きチキン、そばろ等の4種の商品を展開
- こんにゃくミートを用いた商品では、マグロ、イカ、サーモンを再現した商品を展開

輸出実績

- 大豆ミートの2020年販売実績は、北米で年間5トン規模
- 海外向けとして、希望の形状や味付けでのOEM実績あり